

## レポートの書き方①

学部： \_\_\_\_\_ 学科： \_\_\_\_\_  
学籍番号： \_\_\_\_\_ 名前： \_\_\_\_\_

### 1. レポートにふさわしい文章を考えよう

(レポートにふさわしくない表現などを含む文章)

スマートフォンなどの不朽によって、私たちは気軽にコミュニケーションができるようになりました。その一方で、自分の言葉が誤解されることも増えているように思われる。どうしてこのような誤解が生じるのか。本稿では、コミュニケーションツールの特性による伝達可能な情報の限界に着目し、その原因を明らかにしたい。コミュニケーションツールの特性を調べることは、ツールの改良に必要不可欠だ。

体面でのコミュニケーションでは、言葉にされたものだけでなく、様々な情報が伝達されている。声の調子とか表情といった情報を得て、それらを組み合わせながら、言葉の意味を推測する必要があるそうだと(岡本、2016、pp. 2-5)。

一方で、コミュニケーションツールの特性によって、伝達可能な情報の種類は限られる。たとえば電話だったら、声の調子や抑揚を聞き取れるが、非対面だから、相手の表情やしぐさを見ることができない。

以上から、ツールを用いたコミュニケーションでは、ごく限られた情報に基づく推測しか行えない。対面であれば、誤解を修正することもできる(岡本、2016、pp. 49-51)。でも、やり取りできる情報が限られてしまえば、修正の精度も低くなるだろう。そのため、誤解を誘発しやすく、修正もしづらいのだと私は思う。

#### 参考文献

- ・ 岡本真一郎 (2016) 『悪意の心理学——悪口、嘘、ヘイト・スピーチ』  
中公新書

■ 前ページの文章について、レポートには不適切な表現や誤字脱字を指摘し、適切なものになおそう

不適切な表現や誤字脱字（箇所）	適切と思われる表現例
例) 不朽（第1段落 1行目）	例) 普及

■ レポートの主張と直接関係のない主張を1つみつけよう

--

MEMO

--